

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
都立動物園グループ	(指定管理者名) 公益財団法人東京動物園協会 (団体の概要) 昭和23年設立。動物園及び水族園事業の発展振興をはかり、併せて動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献する。
指定期間	
H28.4.1 ~ R8.3.31 (10年間)	

2 施設名	3 収支(単位:千円)			公園別支出額
恩賜上野動物園 多摩動物公園 井の頭自然文化園 葛西臨海水族園	項目	令和3年度 金額	令和2年度 金額	・恩賜上野動物園: 2,324,157 ・多摩動物公園: 2,001,318 ・井の頭自然文化園: 585,151 ・葛西臨海水族園: 1,630,348
	収入 計	6,460,525	6,185,346	
	内訳			
	指定管理料	6,422,906	6,120,346	
	利用料金		0	
	その他収入	37,619	65,000	
支出 計	6,540,974	6,119,404		
収支差	△80,449	65,942		

4 管理運営の概要

当協会は、以下の3つの基本的な考え方に基づき都立動物園・水族園の管理運営を適切かつ円滑に行った。

- ① 展示の工夫と快適な観覧環境の提供による「楽しみながら学べる動物園・水族園」の実現
- ② 国内外の関係組織との協力による野生生物の保全への貢献
- ③ 公益性と経営感覚を合わせ持った施設運営

各園がその特性を発揮し、また各事業部門が連携することにより、当初計画の通り事業を実施できた。

5 管理状況(維持管理)

動物園・水族園の運営を適正に維持継続するため、施設の維持管理を適切に行った。

- (1) 施設の点検と保全: 日常の施設点検等に基づく計画的な補修や緊急的な対応等により、各園を適正に運営させることができた。
- (2) 園内植物の維持管理と活用: 在来山野草の保護に取り組み約730株のヤマユリを开花させるなど、基本的な樹林地管理にとどまることなく園の魅力アップに努めた。
- (3) 自然災害への対応: 豪雨等に備えた止水板設置訓練や排水施設の清掃、雪害に備えて単価契約など対応を準備した。
- (4) 省エネ化への対応: 照明施設を省エネ効果の高いLEDに変え、機械設備類を高効率化設備に更新した。
- (5) オリ・パラ大会後も見据えた施設補修: 観覧施設のバリアフリー化やジャイアントパンダの普及啓発展示等を行った。
- (6) 東京都工事への対応: 都の大型工事による観覧環境の変化に応じた仮設園路の敷設を行う等、工事が円滑に進むよう調整・協力するとともに、観覧環境の維持に務めた。
- (7) 動物舎等の維持補修: 屋根防水や鉄骨造デッキの塗装等のほか、放飼場の改良や動物用暖房等の飼育環境改善にも取り組んだ。

6 利用者アンケート結果

実施方法: 観覧終了した来園者に対し、出口付近で記入依頼

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
恩賜上野動物園	3.5	3.6	3.7	3.6	3.5
多摩動物公園	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6
井の頭自然文化園	3.6	3.8	3.6	3.6	3.7
葛西臨海水族園	3.7	3.8	3.7	3.6	3.7
グループ平均	3.6	3.7	3.7	3.6	3.6

7 入園者数の状況(単位:人)

施設名	当該年度	分析
恩賜上野動物園	565,310	525,999 39,311
多摩動物公園	398,447	422,752 △24,305
井の頭自然文化園	300,670	381,250 △80,580
葛西臨海水族園	429,062	336,135 92,927
合計	1,693,489	1,666,136 27,353

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4園とも年度当初から6月4日まで、また冬期の感染再拡大により4園とも1/11から3/21まで臨時休園となった。さらに上野はすべての開園日において整理券予約システムによる入場制限を実施し、集客をともなうイベントなどもすべて中止し感染拡大防止に努めた。多摩、井の頭、葛西においても整理券制や滞留者数管理による入場制限を実施した。結果として、例年と比べ大幅なマイナスとなり、対前年度比では上野+7.5%、多摩-5.7%、井の頭-21.1%、葛西+27.6%となった。

恩賜上野動物園

臨時休園期間：① 2020年12月26日～2021年6月4日
 ② 2022年1月11日～2022年3月21日

感染症対策と来園者サービス

■ 【4園】インターネットを活用したQRコード入場券と、事前購入のためのオンライン決済システムの運用を、7月から開始しました。タッチレスでの入園が可能になり、感染症対策と来園者の利便性向上の両面に寄与しました。

■ 上野、多摩、葛西において入園窓口でのQR決済と券売機での電子マネー決済を開始し、入場券購入時におけるキャッシュレス化をさらに推進しました。

■ 園内各所の混雑度情報をホームページ上で閲覧できるサービス「上野動物園混雑マップ」（日英二か国語）の提供を6月の再開園と同時に開始し、安心安全な観覧環境を提供するための取り組みを推進しました。



6月「上野動物園混雑マップ」の提供開始



7月 入場券の電子化・オンライン決済システム導入



3月 券売機での電子マネー決済対応開始



4-6月 ツイッターでの情報発信「STAY HOMEでシャンシャン」

オンライン情報発信と教育普及活動

■ 臨時休園期間中は、ツイッターやYouTubeなどを活用し数多くの情報発信を行いました。ジャイアントパンダ「シャンシャン」の動画を毎日配信する「STAY HOMEでシャンシャン」や、動物園内を散歩しているような気分になれる「今日の上野動物園さんぽ」など、動物を観察し、また動物園を楽しめるコンテンツは多くの方に視聴され喜ばれました。

■ 令和2年度は感染症対策のため中止とした「コウモリ観察会」のオンライン開催や、特設展のVR映像公開、動物解説員による解説動画シリーズのYouTube配信開始など、オンラインでの教育普及活動を充実させたほか、園内セルフ観察プログラムの充実を図りました。



8月 「コウモリを知ろう！探そう！オンライン講座」



10月 両生爬虫類館特設展示「民俗学からみるくらしの中の両生類・爬虫類—Folklore×Herpetology」VR公開



11月「くらべて、ためして、おっかけて——動物解説員の視点」動画公開

野生生物の保全

- ジャイアントパンダの繁殖に成功し、上野では初めて双子が誕生しました。園内やホームページ等で広く命名募集をし19万を超える応募を得、選考委員会を経て「シャオシャオ」「レイレイ」と名付けられました。双子は健康に成長し、1月より抽選当選者を対象に公開を開始しました。その後臨時休園を経て、3月より同じく抽選での公開を再開しています。
- 絶滅危惧種であり国の特別天然記念物であるニホンライチョウの人工授精による孵化に国内で初めて成功しました。
- 10月28日の「パンダの日」や、ジャイアントパンダ「リーリー」「シンシン」来園10周年などの機会をとらえ、SNSや園内展示を通じて、野生生物保全の取り組みとその意義を伝える企画を実施しました。



6月 ジャイアントパンダの双子誕生



7・8月 ニホンライチョウの人工授精による孵化に成功



10-11月 パンダの日2021企画「ジャイアントパンダが教えてくれること」



6月 リーリー・シンシン来園10周年記念企画展



11月 「天地創造デザイン部」コラボイベント



12月 うえのZOOスクール



9月 都立動物園・水族園フェア (於: KITTE)

地域連携・外部出展

- 上野観光連盟と連携し人気漫画とのコラボパネル展示を園内で実施したほか、JR上野駅構内の書店と連携した催しや、国立科学博物館及び東京国立博物館と企画したオンラインイベントの開催など、様々な地域連携企画を行いました。
- 感染拡大防止のため長らく休止している団体受入の試行として、区内の弱視通級指導学級向け「うえのZOOスクール」を開催しました。
- 【4園】コロナ禍による入場制限等が続いていることを受け、JR東京駅の商業施設や銀座駅など都内各所において「都立動物園・水族園フェア」として出展を行い、野生生物の保全に関する情報発信やオンライン事業紹介のほか、オリジナルグッズを販売し、収益の回復に努めました。

多摩動物公園

臨時休園期間：① 2020年12月26日～2021年6月4日
② 2022年1月11日～2022年3月21日

野生生物の保全

- 北海道厚岸郡浜中町に生息する貴重な野生動植物の生理生態の解明および生息域の保護・啓発普及を目的として、多摩動物公園は2007年に同町とパートナーシップ協定を結び、以来取り組んできたオオアシトガリネズミの繁殖に、国内で初めて成功しました。
- 韓国のソウル大公園との連携によるライオンの繁殖など、血統更新を図りながら多くの種で繁殖に成功し、希少種の繁殖基地としての役割を果たしました。
- 小笠原諸島が世界自然遺産登録10周年を迎えたことを記念し、都立動物園・水族園が取り組む小笠原のさまざまな希少生物の保全に関するオンライン講演会を開催し、9つのテーマで講演しました。



7月 オオアシトガリネズミの繁殖成功



10月 ソウル大公園とのBLにより誕生したライオンのオスの子



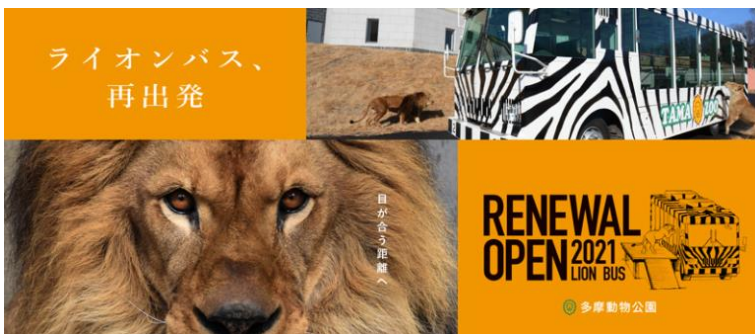
2月 オンライン講演会「未来につなごう！世界に誇れる小笠原の生き物たち」



7月 新アジアゾウ展示施設 完成

新たな展示施設

- 新たなアジアゾウ展示施設「アジアゾウのすむ谷」が完成し、旧アジアゾウ舎で飼育していたアジアゾウ全頭の新施設への移動が完了しました。移動に向けて長期間の準備とトレーニングを行ってきたことで、安全に移動させることができました。
- 2016年に運行を休止したライオンバスの運行を再開しました。再開にあたっては、ライオンたちの放飼練習を重ね、見ごたえのある群れ展示を実現することができました。また、整理券方式を導入し、お客様が安心して乗車できる環境を整えました。
- 臨時休園中にライオンバス非常時対策訓練を実施しました。視察いただいた警察署や消防署の方々からも講評をいただき、訓練の重要性を再認識しました。



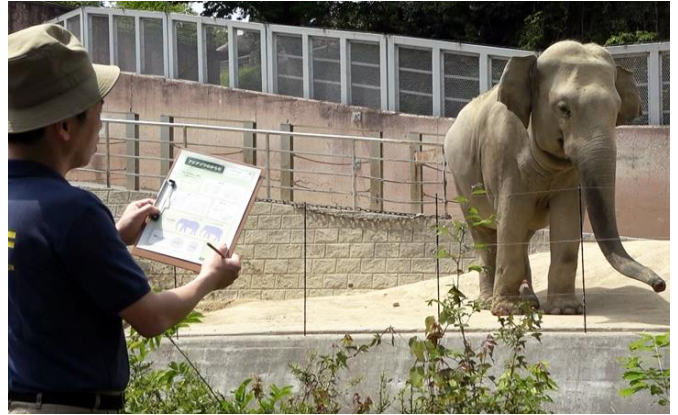
7月 ライオンバス運行再開



2月 ライオンバス非常時対策訓練

オンライン情報発信

- 臨時休園期間中は、ツイッターやYouTubeなどを活用し「園長のタマゾーのんびりさんぽ」など数多くの情報発信を行いました。
- 【4園】休止を継続している園内でのキーパーズトークに代えて、動物解説動画「とっておきトーク」37本や、「飼育係の日常」をテーマとした動画18本など、飼育職員のトークによって楽しみながら、動物や飼育について学ぶことができる動画を多数制作し公開しました。
- 飼育の日企画として、2015年にSNS上で話題を呼んだ「飼育係とつながる掲示板」をオンライン版として実施し、多くの反響を得ました。



4-5月 YouTube動画配信「園長のタマゾーのんびりさんぽ」



通年 動物解説動画「とっておきトーク」



4-5月 YouTube動画配信「飼育の日2021スペシャルムービー“飼育係の日常”」



4-5月 Twitter企画「帰ってきた！飼育係とつながる掲示板」

園の魅力向上と地域連携の取り組み

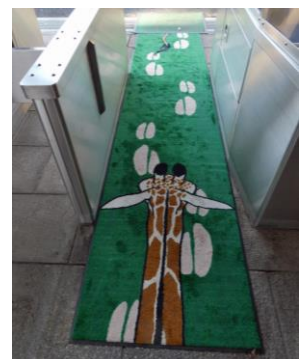
- 京王電鉄・多摩モノレールと連携し、人気漫画とのコラボ企画を実施したほか、京王百貨店新宿店で催された「SHINJUKU ZOO FESTIVAL」で園長がトークショーを行うなど、各種の地域連携イベントを実施しました。
- 園内に自生しその保護に取り組んでいる在来野草のヤマユリを、令和2年の約580株に対し令和3年は約730株開花させることができました。
- 来園者の靴底消毒のために設置している「消毒マット」のリニューアルについて企画検討し、「踏みたくなる！消毒マット」を設置しました。しっかりと踏みただけになっただけでなく、お子様連れのご家族の間で会話が生まれるなど、喜んでいただくことができました。



8月 渡部園長のとっておきトーク（於：京王新宿百貨店）



7月 ヤマユリ730株開花



12月「踏みたくなる！消毒マット」設置

井の頭自然文化園

臨時休園期間：① 2020年12月26日～2021年6月4日
② 2022年1月11日～2022年3月21日

オンライン情報発信と教育普及活動

■ 臨時休園期間中に開園記念日を迎え、井の頭自然文化園としては初の試みとなるライブ配信を実施しました。園長が園の歴史や動物などについて解説しながら園内を散策する様子を配信し、来園いただくことが叶わない中で、最大同時視聴者数497名と多くの方にご覧いただきました。

■ 臨時休園によりご覧いただけない干支展をVR映像として、ホームページ上でご覧いただけるようにしました。

■ 園内の自然を活用し、生き物の研究者などと共に生き物のおもしろさを発見する全3回のシリーズプログラムなど、オンラインでの教育普及活動に取り組みました。



5月 YouTubeLive 井の頭自然文化園開園79周年スペシャル「ぶんかえんライブ！」



1月 干支展「ヤマネコのちいさなおへやお正月だよ！ ヤマネコ展」VR映像公開



6月 おうちで身近なきもの観察オンライン第一回



7月 ウェルカム展示「七夕飾り」来園者の願いをTwitterで募集しスタッフが代筆

園の魅力向上と利用促進

■ 季節に合わせて展示替えを行う「ウェルカム展示」を年間を通じて実施しました。七夕飾りは、職員がお客様の願いを代筆し、コロナ禍の中でもお客様に喜んでいただけるよう工夫して行いました。

■ 毎月発行している園内の植物ガイド「花ごよみ」を臨時休園期間中も継続して発行しホームページで公開しました。

■ 【4園】来園時にポイントを絞った効率的な観覧に役立てていただくことを目的として、「SNS映え」などの切り口で園内の見どころを紹介する「都立動物園・水族園見どころデジタルマップ」を公開しました。



通年 園内の植物ガイド「花ごよみ」



10月 「都立動物園・水族園見どころデジタルマップ」ウェブ公開

野生生物の保全

■ 令和4年に文化園が開園80周年を迎えるにあたり、ソウル大公園から19年ぶりにアムールヤマネコのペアが来園しました。両園の友好関係をさらに築き、日韓共同で希少動物の飼育下繁殖を促進させるために、今後繁殖に取り組んでいきます。

■ 水草「イノカシラフラスコモ」の展示を開始しました。同種は1957年に井の頭池で発見されその後も水質悪化などの影響で姿を消していましたが、2016年の「かいほり」で再び発見されたものです。育成試験を繰り返し、ようやく展示に至ることができました。

■ 2月2日「世界湿地の日」にちなみ、井の頭池にて水鳥のオンライン観察会を実施しました。観察会を通じて身近な湿地の保全の重要性を伝えました。



11月 アムールヤマネコ来園



2月 世界湿地の日記念！「オンライン水鳥観察会」



6月 展示水槽のイノカシラフラスコモ



6-8月 企画展「彫刻のだいじな題字」

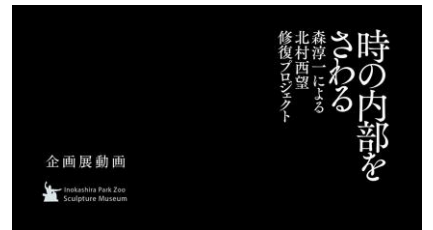
彫刻園保有文化資料の活用

■ 未公開のまま長らく保存されていた石膏の碑文や題名板などを展示する企画展を開催しました。また、新たな試みとして、石膏作品の修復の様子をご覧いただける「公開修復」や、その修復の成果としての企画展を開催するなど、貴重な資料を活用し、様々な展示を行いました。

■ 企画展やギャラリートークをご自宅などでもお楽しみいただけるよう、企画展や所蔵品を1点1点、学芸員の解説つきで紹介する動画を多数制作し、「彫刻園オンライン」としてYouTubeやTwitterで配信しました。



12-3月 企画展企画展「時の内部をさわる——森淳一による北村西望修復プロジェクト」



YouTube動画配信「彫刻園オンライン」

危機管理

■ 【4園】地震・テロ発生時の初動対応マニュアルとして、4園及び総務部それぞれの初動対応計画に対応したハンドブック「東京ZOO防災」を発行し、全職員に配布しました。職員採用時などの防災教育に役立てています。

■ コロナ禍での発災を想定した震災対応訓練を実施しました。一時集合場所における来園者及び職員の感染症対策、コロナ禍を想定して追加した備品の活用などを行いました。一時集合場所でどのように避難者の密を防ぐかなど、課題を確認することができました。



初動対応マニュアル「防災ハンドブック」井の頭版



左から上野版 多摩版 葛西版 総務部版



発熱者隔離用テント



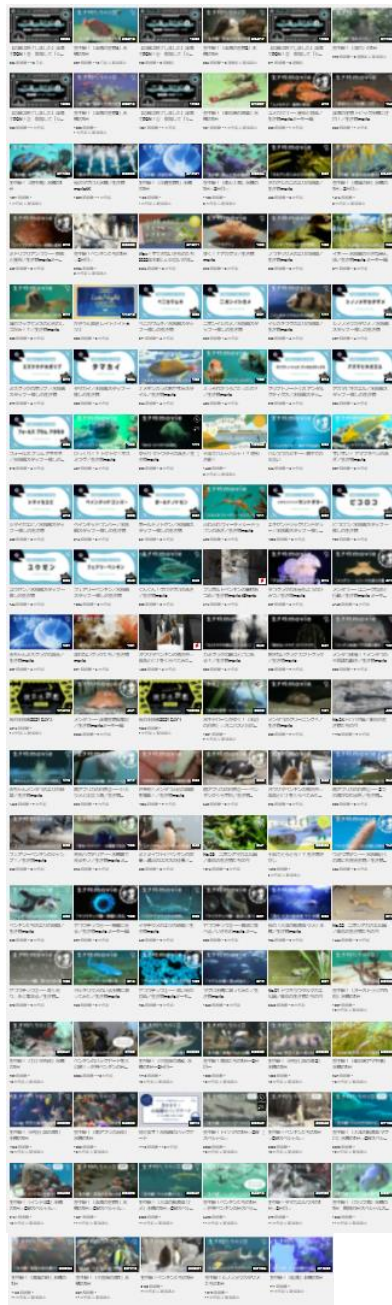
防護服を着用した救護対応職員

葛西臨海水族園

臨時休園期間：① 2020年12月26日～2021年6月4日
 ② 2022年1月11日～2022年3月21日

オンラインでの情報発信

- ご自宅でも生き物や自然について学び親しんでいただけるよう、YouTubeを活用して多数のライブ・動画配信を行いました。チャット機能の活用や事前の質問募集などにより、双方向性の高い配信を実施しました。
- 10月の開園記念日には、初めての24時間配信「マグロ 密着24時!!」を開催しました。マグロの飼育現場からの生中継に加え、子ども向けプログラムやマグロ研究者による特別講義、深夜ラジオ風トークなど、幅広いプログラムを行いました。
- これまで園外で実施してきたフィールドプログラムに代えて、職員がフィールドから中継してライブ配信する企画に初めて取り組んだほか、水中ドローンを活用したライブ配信など、様々な工夫を凝らした配信を行いました。



10月 開園記念日スペシャル配信! 「マグロ 密着24時!!」



「マグロ 密着24時!!」タイムスケジュール



7月 YouTube LIVE配信「干潟でどろどろ!? 生き物さがし」

YouTubeで配信している動画一覧 (113本)



上) 8月 YouTube LIVE 「夜の水族園」
 下) 12月 YouTube LIVE 「2021何あった?」



8月 YouTube LIVE 「水中ドローンがゆく! 水辺の自然-オニバスと川の生き物たち」

新たな展示と 野生生物の保全

■ 長らく展示を目指してきたパショウカジキの展示に初めて成功しました。国内で2例目の成功例であり、のべ5日間展示しました。展示開始についてはTwitterでお知らせをし、お知らせをきっかけに多くの方が来園されました。今回見えた課題を克服しながら、再度の、また長期間の展示を目指していきます。

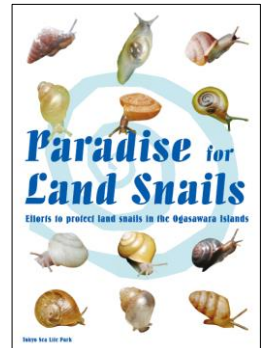
■ 【4園】環境省からの協力要請を受けて4園で保全に取り組んでいる、絶滅危惧種である小笠原諸島固有の陸産貝類（マイマイ）の展示を開始しました。また、小笠原のマイマイについて広く知ってもらうため、環境省、（一財）自然環境研究センターの協力のもとリーフレットを作成しました。小笠原のマイマイが置かれている現状や保全のための取組みについてわかりやすく紹介しています。



9月 展示水槽内を泳ぐパショウカジキ



7月 小笠原陸産貝類の展示を開始



マイマイの普及啓発リーフレット（日本語版と英語版）



1月 水族園のお正月 ゆくウシくるトラ「セルフ観察シート」配布

教育普及活動

■ お正月の開園日には、園内での生き物観察を楽しんでいただけるよう、感染防止策をしたうえで「セルフ観察シート」を配布し、多くの方にご参加いただきました。

■ 幼児向けから大学生向けまで、様々な年齢別プログラムをオンラインで実施しました。参加者にはご自宅でご用意いただくなど、リモートでも実際に近い形で実施できるような工夫を凝らしました。

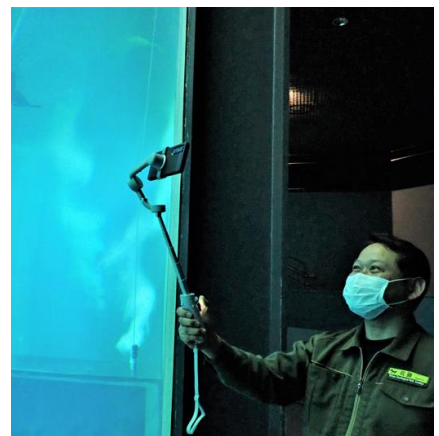
■ 臨時休園期間中は受け入れを中止していた中学生らを対象とした「職場体験」を初めてオンラインで実施しました。オンラインであっても「体験」を盛り込めるよう計画し、先生からは「いろいろ工夫していただき泣きそうになった」、生徒からも「オンラインでもこんなに体験できるなんて」といったうれしい感想をいただきました。



7月 小学1・2年生対象プログラム「いきものことはじめ」



1-2月 オンライン職場体験 種ラベル作成体験



1-2月 オンライン職場体験
スマートフォンを使って休園中の園内を案内